グローバルなネットワーク

在籍する学生は、アフリカ・アジア・中南米など世界各地で活躍する国連や国際協力機構の専門家・職員、コンサルタントや青年海外協力隊員、NGOスタッフなど、非常に多彩だ。実際、入学者の約4割が途上国に在住している。

教員には、国連やNGOなどで豊かな実務経験をもつ専門家が多く、マクロからミクロまで学際的な相互討論を深めつつ開発への関心を共有している。学生はそれぞれの対象地域の独自性・固有性と、普遍的・理論的な知の体系の両方を学び、各自の論文に生かすことができる。

さらに、インターネットによる指導や交流とあわせて、インド・フィリピン・ケニアの大学との提携を促進。現地の大学教員による講義やフィールドワークを毎年開催し、発展途上国の状況について学びを深める場を提供している。

コースを通じて、学生たちは、専門分野、地域、年齢を越えたネットワークを形成しているという。「仕事や育児、家事、介護など、社会人ゆえの勉学の困難もあるでしょう。くじけそうになった時、ここで得られたネットワークは、必ずモチベーション維持に役立ちますし、キャリア向上に結び付くこともあります」。

東日本大震災では、翌日から学生がネットワークを生かして被災地での救援活動を開始し、ネット上で安否確認や励まし合いが続いたという。「この研究科を通じて豊かなつながりを築き、逆境にある人々に寄り添うワーカーになってほしい」と穂坂教授は学生たちに期待する。

Student's Voice

世界中で活躍する友人先輩と議論

国際社会開発研究科2011年修了

横山 明子さん Yokoyama Akiko

私は現在（特活）AMDAで働いており、それ以前は、タンザニアのJICAマラリア対策プロジェクトに従事していました。タンザニアでの経験を活かして、大学院で学び直したいと考えました。

そこで、かつて学んだ経験もあり、充実したカリキュラムの存在を知っていたこと、仕事をしながら学べることから、日本福祉大学を選びました。

研究テーマは、東アフリカ諸国の障害者支援です。この研究科には「障害と開発」分野の経験や知識豊かな教員や学生が集まっており、専門的な議論ができます。研究科で得られた人とのつながりは一生の財産です。

今後はここで習得した知識やネットワークを、AMDAでの業務に生かしていきたいと思います。

アマゾンでの活動を改めて見直す

国際社会開発研究科2011年修了

定森 徹さん Sadamori Toru

私は現在、（特活）HANDSがアマゾン奥地で実施する熱帯果実やイモ、木材となる樹木を一緒に育てるアグロフォレストリーの導入プロジェクトに携っています。その中で、これまで十数年間の実地経験を見直したいと考え、現地にいながら通信制で学べる日本福祉大学で学ぶことにしました。

研究テーマは、実際に携わっているアマゾン西部でのアグロフォレストリー普及についてです。今後のプロジェクト活動を実施する上でも、貴重な示唆を得ることができました。

教授陣も学生も現場経験が長い人が大半で、さまざまな地域、分野での経験があるため、たくさんの刺激が受けられます。互いに悩みも共有でき、修了後も仲間としてつながり続けています。

Point in Check!

学生たちはさまざまなフィールドで調査に取り組んでいる。写真は、定森さんのブラジルでの調査

理論と実践を結び付けたカリキュラム

「開発学」の枠組みを学ぶと同時に、開発現場の実態をどのように「あるべき姿」にするかに重点を置き、「理論」と「実践」を有機的に結び付けていく。

自主的フィールドワークを推奨

学生が一定の条件の下で自主的に実施したフィールドワークも、スクーリング科目に代わるものとして評価・認定。本学海外客員教授や海外のリソースパーソンの指導・助言も受けられる。